

新着資料展

（人文部門）

民俗部門展示資料から

博物館にミショー型自転車がやってきた

ミショー型自転車とは、1863年にフランス人のピエールミショーが考案した世界最初の量産自転車です。それまでの自転車“ドライジーネ”はペダルが無く、地面を蹴って走行する自転車でした。ミショー型は前輪に初めてクランクとペダルが付けられ、月間400台もが生産されたといわれます。のちイギリスに渡ると、その乗り心地の悪さから“ボーンシェーカー”（骨ゆすぶり）とも呼ばれましたが、アメリカでも量産され1880年代まで世界に広まりました。1880年頃には前輪が極端に大きな“オーディナリー”がイギリスで生産され主役の座を譲りました。

慶応年間（1865～1868）に日本へ初めて自転車が渡来したときの自転車がこのミショー型であったといわれています。博物館の自転車は、明治2年-1869-（一説には明治4年）に当時の逓信省がアメリカから購入したといわれています。旧所蔵者は、市内明石町で自転車店を営み、若い頃は自



2006. 12. 22 ミショー型自転車が博物館へ到着

転車競技の選手として

も名を馳せた故・平田忠心氏（1898～1988）で、氏の膨大な自転車コレクションのひとつでした。平田氏は、本市の競輪場開設をはじめ、自転車と交通文化の発展にたいへん尽力された方です。また、大雄山最乗寺道了尊の篤信者であり、大正13年に平塚の商店主で組織した平塚復興講の講元を生涯にわたり務められ、道了信仰の普及に寄与されました。

ミショー型自転車は昭和30年代に東京都千代田区の旧交通博物館へ貸し出され、長らく常設展示されていました。昨年、同館の閉館にともない、平田氏のご家族から当館へ寄贈されました。ミショー型自転車の保有台数は国内で多くても10数台程度と推定されているたいへん稀少なものです。今後も常設展示をする予定ですので、ぜひ一度ご覧ください。

平田貸切自動車の店先（大正7年撮影）

平田氏は大正4年の自転車販売業に続き、大正7年に貸切自動車を開業。前列右から二人目が平田氏。



考古部門資料から

「大昔のくらし」原画

昨夏実施した特別展「五領ヶ台貝塚ものがたり」解説パネルの原画です。こどもを対象とした同展開催にあたり、市内在住の伊藤昭治氏に、こどもの目線で「五領ヶ台人のくらし」を描いていただきました。

それぞれの原画に、親子関係の暖かい温もりが感じられます。じっくりごらんになって下さい。



歴史部門資料から

焼夷弾が突き抜けた天井

黒部丘にお住まいの平田佐千子さんから、焼夷弾が突き抜けた天井板を寄贈していただきました。

この天井板は昭和20年7月16日の平塚大空襲のさいに平田家に落ちてきた焼夷弾が突き抜けたもの



で、平田さんは当時の様子を「我が家に焼夷弾が一発命中。屋根に突き刺さり、詮が天井板を突き破り、突き刺さった焼夷弾は火を噴き出し襖に、そして畳へと燃え移っていた」と記しています（『火薬廠のある街で』）。このときはお父さんが襖の火を叩き消し、畳を庭へ蹴りだしたことで家の焼失を免れたといえます。